

日本農薬学会第43回大会プログラム

日時：平成30年5月25日(金)～27日(日)

会場：秋田ビューホテル（〒010-0001 秋田市中通2-6-1）

秋田県立大学秋田キャンパス（〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438）

大会日程

5月25日(金) 秋田ビューホテル 4階・飛翔の間

総会および授賞式

9:30-11:05

会務報告, 会計監査報告, 議事

日本農薬学会賞授賞式

奨励賞

岩船 敬（内閣府 食品安全委員会事務局 評価第一課）

片岡良太（山梨大学生命環境学部環境科学科）

業績賞(研究)

田中啓司（近畿大学農学部）

業績賞(技術)

坂 真智子（一般財団法人残留農薬研究所）

論文賞

Okishi Mashita, Hikaru Koishihara, Kosuke Fukui, Hidemitsu Nakamura, Tadao Asami

“Discovery and identification of 2-methoxy-1-naphthaldehyde as a novel strigolactone-signaling inhibitor”

平成30年度日本農薬学会賞受賞者講演

11:10-11:50 / 13:30-14:40

特別講演

14:50-17:05

橋本 勝（弘前大学農学生命科学部）

堀 雅敏（東北大学大学院農学研究科）

西本 麗（農薬工業会会長, CropLife International 理事）

懇親会・受賞祝賀会

18:00-20:00

5月26日(土) 秋田県立大学秋田キャンパス・大学院棟, 講堂, 共通施設棟

一般講演, シンポジウム, ランチョンセミナー, 展示会

9:00-18:15

5月27日(日) 秋田県立大学秋田キャンパス・大学院棟, 講堂, 共通施設棟

一般講演, シンポジウム, ランチョンセミナー, 展示会

9:00-16:20

平成 30 年度日本農薬学会賞受賞者講演

5 月 25 日(金) 秋田ビューホテル 4 階・飛翔の間

奨励賞

AL1 岩船 敬 (内閣府 食品安全委員会事務局 評価第一課) 11:10-11:30
「河川における農薬及び代謝分解物の挙動と生態毒性に関する研究」
座長: 大山和俊 (一般財団法人残留農薬研究所)

AL2 片岡良太 (山梨大学生命環境学部環境科学科) 11:30-11:50
「環状ジエン殺虫剤分解糸状菌の探索と分解代謝経路の解明」
座長: 井藤和人 (島根大学)

業績賞(研究)

AL3 田中啓司 (近畿大学農学部) 13:30-14:05
「GABA 受容体に作用する殺虫剤の代謝、作用機構および実用化に関する研究」
座長: 平井憲次 (相模中央化学研究所)

業績賞(技術)

AL4 坂 真智子 (一般財団法人残留農薬研究所) 14:05-14:40
「残留農薬分析法に関する実用的技術の開発とその普及」
座長: 吉村 巧 (クミアイ化学工業株式会社)

特別講演

5 月 25 日(金) 秋田ビューホテル 4 階・飛翔の間

PL1 橋本 勝 (弘前大学農学生命科学部) 14:50-15:35
「リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の生物有機化学」
座長: 田母神 繁 (秋田県立大学)

PL2 堀 雅俊 (東北大学大学院農学研究科) 15:35-16:20
「青色光の殺虫効果と防除への応用」
座長: 野下浩二 (秋田県立大学)

PL3 西本 麗 (農薬工業会会長, CropLife International 理事) 16:20-17:05
「農薬産業の世界的動向」
座長: 夏目雅裕 (東京農工大学)

シンポジウム1

5月26日(土) 秋田県立大学秋田キャンパス・講堂(D会場)

「未来を照らせ！新成分・新活性 -第35回農薬生物活性研究会シンポジウム-」

共催：農薬生物活性研究会

オーガナイザー：濱村謙史朗（公益財団法人日本植物調節剤研究協会）

開会挨拶	15:00-15:05
S201 フェアリー化合物の化学,そして農業への応用の可能性 河岸洋和（静岡大学グリーン科学技術研究所）	15:05-15:40
S202 ジャスモン酸類縁体(プロヒドロジャスモン)を用いたアザミウマ類の行動抑制による 被害抑制効果 ○安部 洋 ¹ , 櫻井民人 ² , 大矢武志 ³ , 松浦昌平 ⁴ , 三富正明 ⁵ , 腰山雅巳 ⁶ , 富高保弘 ⁷ , 津田新哉 ⁸ , 小林正智 ¹ (¹ 理化学研究所バイオリソースセンター, ² 中央農業総合研究セン ター, ³ 神奈川県農業技術センター, ⁴ 広島県立総合技術研究所農業技術センター, ⁵ Meiji Seika ファルマ, ⁶ 日本ゼオン)	15:40-16:15
S203 新規殺菌剤トルプロカルブの作用機作と生物活性 萩原寛之（三井化学アグロ株式会社 農業化学研究所）	16:15-16:50
S204 新規殺菌剤ピラジフルミドの生物活性 菊武和彦（日本農薬株式会社）	17:00-17:35
S205 新規水稻用除草剤フェンキノトリオンの生物活性 ○永松 敦, 天野裕太, 上田 憲, 山本峻資, 大野修二, 小林方美 (クマイ化学工業株式会社 生物科学研究所)	17:35-18:10
閉会挨拶	18:10-18:15

シンポジウム2

5月27日(日) 秋田県立大学秋田キャンパス・講堂(D会場)

「先端技術と農薬の未来像」

共催:農薬バイオサイエンス研究会

オーガナイザー:野下浩二 (秋田県立大学)

開会挨拶

S301 天然物立体異性体を用いる植物ホルモン活性の化学チューニング 13:15-13:50

上田 実 (東北大学大学院理学研究科)

S302 バイオインフォマティクスへの機械学習の取り込みとオーキシン阻害剤開発 13:50-14:25

○笥 雄介, 嶋田幸久 (横浜市立大学・木原生物学研究所)

S303 構造ベース創農薬による硝化抑制剤の開発 ~農薬開発に必要なイノベーション~

14:25-15:00

○西ヶ谷有輝^{1,2}, 土屋 渉¹, 藤本 瑞¹, 藤原孝彰¹, 鈴木倫太郎¹, 山崎俊正¹

(¹農研機構・高度解析センター, ²(株)AgroDesign Studio)

S304 細胞膜透過ペプチド:ポリヒスチジンを利用した動物・植物細胞に対する分子輸送

15:10-15:45

○岩崎 崇, 山崎明歳, 大村昂誠, 木村さやか, 河野 強 (鳥取大院・農)

S305 ピンポイント塩基編集による次世代育種の可能性

15:45-16:20

西田敬二 (神戸大学大学院・科学技術イノベーション研究科)

閉会挨拶

ランチョンセミナー

5月26日(土) 秋田県立大学秋田キャンパス・共通施設棟

12:00-13:00

L1 エンヴィーゴ株式会社

会場: 2階 A211 教室 (E 会場)

演題: Use of Plant Protection Products and Protection of Human Health - Risk assessment Approaches For Worker, Bystanders, Residents and Children

演者: Gary Dean (Business Lead, Crop Protection, Envigo Consulting)

L2 日本チャールス・リバー株式会社

会場: 2階 A212 教室 (F 会場)

演題: Agrochemical Metabolites - A Regulatory Challenge that needs Innovative Approaches

演者: David Macpherson (Charles River Laboratories Edinburgh)

L3 農薬工業会

会場: 3階 A303 教室 (G 会場)

演題: 食料生産の重要性と農薬のイノベーション

演者: 廣岡 卓 (農薬工業会事務局長)

★ランチョンセミナーでは、70名までお弁当が無料で提供されます。チケットは、各セミナー当日の朝8:30から受付で配布します。奮ってご参加ください。

5月27日(日) 秋田県立大学秋田キャンパス・共通施設棟

12:00-13:00

L4 Pharmaron UK [世話役: ビオブリッジ株式会社]

会場: 2階 A211 教室 (E 会場)

演題: 農薬使用者に対する影響評価としての in vitro 経皮吸収試験

“Dermal Studies: Risk Assessment for Plant Protection Products”

演者: Ray Cooke (Principal Scientist, Metabolism, Pharmaron UK)

L5 IES Ltd. [世話役: 株式会社スリーエス・ジャパン]

会場: 2階 A212 教室 (F 会場)

演題: Innovations in aquatic and terrestrial Ecotox - IES 社における水生/陸生環境毒性試験についての技術革新 (ミジンコ試験フロースルーシステムとハチ試験のサンプル分析検証を中心に) -

演者: Stefan Hoeger (IES Ltd.)

座長: 元場一彦 (日本農薬株式会社)

L6 ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

会場: 3階 A303 教室 (G 会場)

演題: Sulfoxaflor (Isoclast™ Active): Mode of Action, Cross Resistance, Metabolism and Differentiation from Neonicotinoids.

演者: ○Lakshmipathi Srigiriraju, Melissa Willrich Siebert, Yafeng Chen, Megu Oue, Jon Babcock (Corteva Agriscience™, Agriculture Division of DowDuPont™)

演題: Isoclast™ Active: A Reliable Tool For Managing Key Sap-Feeding Insects Globally.

演者: ○Yafeng Chen, Melissa Willrich Siebert, Lakshmipathi Srigiriraju (Corteva Agriscience™, Agriculture Division of DowDuPont™)

演題: 新規殺虫剤イソクラスト™の特長と日本国内での展開

演者: ○大上 恵¹, 溝山 泰徳², 尾上 美和³, 白石 郁雄¹, Lakshmipathi Srigiriraju¹ (¹Corteva Agriscience™, Agriculture Division of DowDuPont™, ²日産化学工業株式会社, ³北興化学工業株式会社)

★各ランチョンセミナーでは、70名までお弁当が無料で提供されます。チケットは、各セミナー当日の朝8:30から受付で配布します。奮ってご参加ください。

展示会

秋田県立大学秋田キャンパス・講堂前(バイオメディアエリア, ホワイエ)

5月26日(土) 9:00-17:00

5月27日(日) 9:00-16:00

出展: インビボサイエンス株式会社

IES Ltd./株式会社スリーエス・ジャパン

宇部興産株式会社

株式会社 ビジコムジャパン

株式会社 野村事務所

講演日程一覧

	A 会場 (M216)	B 会場 (M204)	C 会場 (M109)	D 会場 (講堂)
5月26日(土)	一般講演 作用機構・抵抗性	一般講演 合成プロセス 分子設計	一般講演 遺伝子科学 天然物化学	一般講演 代謝・分解・動態 環境科学
9:00-11:30				
12:00-13:00	ランチョンセミナー(E, F, G 会場)			
13:15-14:45	一般講演 作用機構・抵抗性	一般講演 分子設計	一般講演 天然物化学	一般講演 環境科学
15:00-18:15				シンポジウム 1 未来を照らせ！新成分・新 活性 -第35回農薬生物 活性研究会シンポジウム-
5月27日(日)	一般講演 作用機構・抵抗性	一般講演 製剤・施用法 その他	一般講演 天然物化学 生物活性・検定法	一般講演 残留・分析法
9:00-11:30				
12:00-13:00	ランチョンセミナー(E, F, G 会場)			
13:15-16:20				シンポジウム 2 先端技術と農薬の未来像

ランチョンセミナー会場

	E 会場 (A211)	F 会場 (A212)	G 会場 (A303)
5月26日(土)	エンヴィーゴ 株式会社	日本チャールス・ リバー株式会社	農薬工業会
12:00-13:00			
5月27日(日)	Pharmaron UK/ バイオブリッジ 株式会社	IES Ltd. / 株式会社スリーエス・ ジャパン	ダウ・アグロサイエンス 日本株式会社
12:00-13:00			

大会日程表

第 1 日 5 月 25 日 (金)		第 2 日 5 月 26 日 (土)					第 3 日 5 月 27 日 (日)				
秋田ビューホテル		秋田県立大学・大学院棟, 講堂, 共通施設棟					秋田県立大学・大学院棟, 講堂, 共通施設棟				
総会および 日本農薬学会賞 授賞式		開始 時刻	A 会場 (M216)	B 会場 (M204)	C 会場 (M109)	D 会場 (講堂)	開始 時刻	A 会場 (M216)	B 会場 (M204)	C 会場 (M109)	D 会場 (講堂)
9:00	総会	9:00	A201	B201	C201	D201	9:00	A301	B301	C301	D301
		9:15	A202	B202	C202	D202	9:15	A302	B302	C302	D302
		9:30	A203	B203	C203	D203	9:30	A303	B303	C303	D303
		9:45	A204	B204	C204	D204	9:45	A304	B304	C304	D304
10:50	授賞式	10:00	A205	B205	C205	D205	10:00	A305	B305	C305	D305
		10:15	A206	B206	C206	D206	10:15	A306	B306	C306	D306
	受賞者講演	10:30	A207	B207	C207	D207	10:30	A307	B307	C307	D307
11:10	奨励賞 1	10:45	A208	B208	C208	D208	10:45	A308		C308	D308
11:30	奨励賞 2	11:00	A209	B209	C209	D209	11:00	A309		C309	D309
11:50 ~ 13:30	昼食休憩	11:15	A210	B210	C210	D210	11:15	A310			D310
		12:00 ~ 13:00	ランチョンセミナー (E 会場, F 会場, G 会場)				12:00 ~ 13:00	ランチョンセミナー (E 会場, F 会場, G 会場)			
13:30	業績賞(研究)	13:15	A211	B211	C211	D211	13:15				シンポ ジウム
14:05	業績賞(技術)	13:30	A212	B212	C212	D212	~ 16:20				2
14:40	休憩	13:45	A213	B213	C213	D213					
14:50	特別講演 1	14:00	A214	B214	C214	D214					
15:35	特別講演 2	14:15	A215	B215	C215	D215					
16:20	特別講演 3	14:30	A216	B216	C216	D216					
17:05		15:00 ~ 18:15					シンポ ジウム 1				
18:00 ~ 20:00	懇親会	18:30	シャトルバス(秋田駅行き)				16:30	学生優秀発表表彰式			
							16:30	シャトルバス(秋田駅行き)			
							17:00	シャトルバス(秋田空港行き) シャトルバス(秋田駅行き)			

一般講演座長一覧

平成 30 年	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
5 月 26 日(土)	平田晃一 (A201-A204)	王 敬銘 (B201-B203)	森本正則 (C201-C203)	乾 秀之 (D201-D204)
	塩月孝博 (A205-A207)	村井正俊 (B204-B206)	石原 亨 (C204-C207)	渡邊裕純 (D205-D207)
	泉津弘佑 (A208-A210)	謝 肖男 (B207-B210)	網干貴子 (C208-C210)	高木和弘 (D208-D210)
	森 直樹 (A211-A213)	中川好秋 (B211-B213)	甲斐建次 (C211-C213)	小原裕三 (D211-D213)
	岡澤敦司 (A214-A216)	古田賢次郎 (B214-B216)	橋床泰之 (C211-C213)	大津和久 (D214-D216)
	有江 力 (A301-A303)	野下浩二 (B301-B304)	宮下正弘 (C301-C303)	川島洋人 (D301-D303)
	坂元君年 (A304-A307)	田母神 繁 (B305-B307)	西脇 寿 (C304-C306)	矢島智成 (D304-D307)
野村路一 (A308-A310)		仲下英雄 (C307-C309)	山本幸洋 (D308-D310)	

第 43 回大会(秋田)組織委員会

組織委員長: 田母神 繁(秋田県立大学)

委員: 野下浩二(秋田県立大学) 王 敬銘(秋田県立大学) 川島洋人(秋田県立大学) 佐山 玲(秋田県農業試験場) 坂元君年(弘前大学) 網干貴子(山形大学) 小原裕三(農研機構 農業環境変動研究センター) 三谷 晃(日本曹達株式会社) 野村路一(三井化学アグロ株式会社)

一般講演についてのお願い

講演はすべて、Microsoft PowerPointで作成されたファイルを液晶プロジェクターで投影して行います。講演時にトラブルが起きないように、下記の注意点を参考にしてファイルの作成と受付を行ってください。使用するノートパソコン（OS: Windows 7）には、最新のMicrosoft PowerPoint Viewer（無料ソフト）がインストールされています。演台上のPCは、補助者はつきますが、原則として演者の方ご自身で操作していただきます。

ファイル作成の注意点

- (1) 発表1題につき1つのファイルを作成し、ファイル名は講演番号_講演者名（半角英数のみ使用).ppt（あるいは.pptx）としてください。
例: A201_akita.ppt
- (2) 講演時間は1題15分（講演12分、討論3分）です。12分の発表時間に適したスライドの枚数にしてください。また、遠距離からも十分見えるよう、文字のサイズやフォントの選択に留意してください。
- (3) スライド中に使用するフォントは、文字化けを防ぐために機種依存文字(①, (株)など)の使用は、極力避けてください。
- (4) 動画等を含む大容量のファイルはトラブルの原因になりますので、極力避けてください。やむを得ない場合は、ファイルを可能な限り圧縮してください。
- (5) 作成されたファイルはWindows版のPowerPointでスムーズにスライドショーができることを確認してください。特にMacintoshをご使用の方は、ファイルをお持ちいただく前に、Windows版のPowerPointで動作確認を各自お願いいたします。特にフォントずれや文字化け、オブジェクトの非認識等にご注意ください。

データ受付の流れ

発表ファイルの受付は、原則として **5月25日(金)（一般講演前日）に済ませてください**。発表者が受付できない場合は、共同発表者の方が代わりに行ってください。発表直前の受付はご遠慮ください。

- (1) 発表用ファイルはUSBメモリに保存してお持ちください。
- (2) 総会会場の受付付近に設置した「発表ファイル受付」にて、ウイルスチェックを行なった後、発表ファイルをコピーしていただき、スライド動作に問題がないかどうかを確認してください。
- (3) 万が一のトラブルに備え、発表用ファイルの入ったUSBメモリは、発表時にご持参ください。
- (4) 大会終了後は、講演会場用PCにコピーされた発表ファイルは大会組織委員立会いの下、確実に削除いたします。

一般講演

講演 12 分, 討論 3 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分, 3 鈴 15 分)

第 2 日 5 月 26 日(土) 午前の部 A 会場 (大学院棟 M216)		
9:00	A201	<p>アクシーブ®のコムギに対する選択性メカニズムの解析</p> <p>○種谷良貴, 河合 清(クミアイ化学)</p>
9:15	A202	<p>多剤抵抗性タイヌビエにおけるジクロホップメチル抵抗性に関与する新規 P450 遺伝子の探索</p> <p>○須田宏栄¹, 岩上哲史¹, 倉田康平¹, 上舘巧嵩², 田中啓介³, 田中 聡³, 松本 宏², 富永 達¹(¹京都大学, ²筑波大学, ³東京農業大学)</p>
9:30	A203	<p>リガンド作動性 Cl⁻チャネル変異体におけるフルララネルの活性</p> <p>○山藤康平¹, 高島麻都花¹, 旭 美穂², 小林正樹², 中平国光², 尾添富美代¹, 尾添嘉久¹(¹島根大・生資科, ²日産化学・生科研)</p>
9:45	A204	<p>ヒトスジシマカで初めて見出された強いピレスロイド剤抵抗性集団と作用点変異</p> <p>○葛西真治¹, 角田 隆², 前川芳秀¹, 糸川健太郎¹, 室田勝功^{1,3}, 駒形 修¹, 津田良夫¹, 皆川 昇², 沢辺京子¹, 富田隆史¹(¹国立感染研・昆虫, ²長崎大学・熱帯医学研, ³Japan Agency for Medical Research and Development (AMED))</p>
10:00	A205	<p>愛知県におけるジイミド系およびその他 3 種殺虫剤に対するハスモンヨトウの薬剤感受性の動態、地域間差および薬剤間相関性</p> <p>○平野忠美, 子安英雄, 政 美加(JAあいち経済連営農支援センター)</p>
10:15	A206	<p>スピノサド抵抗性のヒラズハナアザミウマで見つかった nAChR α6 サブユニットのアミノ酸変異</p> <p>○園田昌司¹, 蛭田江美香¹, 相澤美里², 中野昭雄³(¹宇都宮大・農, ²香川農試, ³徳島農総技セ)</p>
10:30	A207	<p>Dieldrin 抵抗性イエバエ(OCR 系)の非競合性 GABA アンタゴニスト活性に対する交差抵抗性</p> <p>○田中啓司¹, 高市成美¹, 尾添嘉久², 赤松美紀³, 松田一彦¹(¹近畿大農, ²島根大生物資源科, ³京都大農)</p>
10:45	A208	<p>国内産イネ紋枯病菌の QoI 剤感受性</p> <p>○石井英夫¹, 黒崎 敦¹, 石井貴明², 櫻田史彦³, 内橋嘉一⁴, 秋満柊兵¹(¹吉備国際大, ²福岡農林総試, ³宮城古川農試, ⁴兵庫農総技セ)</p>
11:00	A209	<p>ルミネックス法を用いた複数遺伝子の殺菌剤耐性変異の同時検出</p> <p>○藤村 真, 二反田正悟, 藤本菜月, 佐竹諒子, 堀内愛実, 山口友輔(東洋大・生命科学)</p>
11:15	A210	<p>複数の天然物を用いた赤かび病防除及びかび毒低減化技術</p> <p>馬場(森)裕美, 中嶋祐一¹, 佐藤和広², 木村 真¹, ○西内 巧(金沢大・遺伝子, ¹名古屋大・農, ²岡山大・資植研)</p>

第2日 5月26日(土) 午前の部 B会場 (大学院棟 M204)

9:00	B201	新奇農薬デザインの新合成ツール:SF5 および SF4 化合物の合成 徳永恵津子 ¹ , 新名清輝 ¹ , 齋藤記庸 ² , ○柴田哲男 ¹ (¹ 名工大院工, ² 宇部興産(株))
9:15	B202	HFC23 を使用したトリフルオロメチル基導入反応 斉藤拓弥, 徳永恵津子, ○柴田哲男(名工大院工)
9:30	B203	新規殺菌剤ジクロベンチアゾクスに関する研究 -合成と生物活性- ○永田俊浩, 山脇大輔, 小暮篤史, 金子 功(クマイ化学工業株式会社)
9:45	B204	新規殺菌剤ジクロベンチアゾクスに関する研究-イネいもち病防除効果- ○寺田壮志, 小暮篤史, 金子 功, 尾崎剛一(クマイ化学工業株式会社)
10:00	B205	植物の「三重反応」を誘導する蛍光プローブの合成と利用に関する研究 ○王 敬銘, 藤田寛大, 江崎奨吾, 富尾 冨(秋田県立大学・応用生物)
10:15	B206	CYP90s 遺伝子突然変異体を用いた YCZ 蛍光プローブの作用機構解析 ○富尾 冨 ¹ , 星 智樹 ² , 渡辺明夫 ³ , 王敬銘 ² (¹ 秋田県立大院・生物機能, ² 秋田県立大・応用生物, ³ 秋田県立大・生物生産)
10:30	B207	ストリゴラクトン受容体アンタゴニスト carba-SLs の創出 ○竹内 純 ¹ , 姜 凱 ² , 平林 佳 ² , 今村優作 ² , 呉 雅珊 ² , 徐 玉群 ² , 宮川拓也 ² , 中村英光 ² , 田之倉 優 ² , 浅見忠男 ² (¹ 静大・農, ² 東大・農生科)
10:45	B208	ストリゴラクトン受容体共有結合型阻害剤の開発とストライガ種子発芽抑制活性の評価 ○新山瑠璃, 胡 文倩, 喜久里 貢, 姜 凱, 今村優作, 中村英光, 浅見忠男(東大院・農生科・応生化)
11:00	B209	ジベレリンシグナリング制御剤の開発とその応用 ○姜 凱 ¹ , 大谷征史 ¹ , 太田 鋼 ¹ , 中野雄司 ² , 中村英光 ¹ , 中嶋正敏 ¹ , 浅見忠男 ¹ (¹ 東大院・農生科・応生化, ² 理研・機能開発グループ)
11:15	B210	Ames 変異原性予測ソフトウェアの開発 ○澤田敏彦 ¹ , 橋本智裕 ¹ , 和佐田裕昭 ¹ , 利部伸三 ² (¹ 岐阜大学・地域科学部, ² 岐阜大学・名誉教授)

第2日 5月26日(土) 午前の部 C会場 (大学院棟 M109)

9:00	C201	LC-MS/MSによる riccionidin A の分析 ○謝 肖男 ¹ , 内田健一 ² , 米山弘一 ¹ (¹ 宇都宮大学・バイオセンター, ² 帝京大学・理工・バイオ)
9:15	C202	イネに潜伏感染するエンドルナウイルスが宿主の生長や2,4-D耐性に与える影響 ○井村友英 ¹ , 岡田 亮 ² , 植松清次 ¹ , 福原敏行 ¹ , 森山裕充 ¹ (¹ 農工大院農, ² 茨城農総セ・園芸研究所)
9:30	C203	きのご糞菌床抽出物によるイネの防御応答の誘導 安藤郁奈 ¹ , 村田晃一 ¹ , 小久保 悠 ² , 森本紀子 ² , 宇部尚樹 ³ , 上野 誠 ⁴ , 上野琴巳 ¹ , 大崎久美子 ¹ , ○石原 亨 ¹ (¹ 鳥取大・農, ² 鳥取大学院・農, ³ 鳥取大学院・連農, ⁴ 島根大・生物資源)
9:45	C204	イネにおけるイソペンチルアミンの生合成 ○網干貴子 ¹ , 飯塚千晶 ¹ , 寺石政義 ² , 奥本 裕 ² , 森 直樹 ² , 村山哲也 ¹ (¹ 山形大農, ² 京大院農)
10:00	C205	イネフィトアレキシンであるモミラクソン A のイネ病原真菌による代謝 ○隠塚修平, 勝間田 駿, 武山恵典, 戸嶋浩明, 長谷川守文(茨城大・農)
10:15	C206	ヤーコン由来セスキテルペンラクトン類の昆虫摂食阻害活性発現に係る化学構造因子 ○森本正則, 綱木海成, 松田一彦(近畿大院・農・応生化)
10:30	C207	トウモロコシ根の摩砕液におけるカウラレキシンの急速な産生 ○鶴嶋 鉄 ¹ , 伊佐治俊作 ² , 森 直樹 ² , 宮川 恒 ² (¹ 阪南大流通, ² 京大農)
10:45	C208	微生物防除に使えるセスキテルペン高度合成系構築のための <i>Trichoderma virens</i> PS1-7 株遺伝子改変の試み ○三又一泰 ¹ , 横田 基 ¹ , 高井浩哉 ² , 橋床泰之 ¹ (¹ 北海道大院農, ² 北海道大農)
11:00	C209	<i>Burkholderia plantarii</i> のトロポロン生成亢進因子の探索とトロポロン含有量が増大した培養物の殺草力の検定 ○橋床泰之, 立花誠治, 能崎 薫(北海道大学・大学院農学研究院/農学院)
11:15	C210	ベタニンの中心子(ナデシコ)目植物生体防御物質としての可能性検証 ○薬師 葉, 浅野純一, Duan Jie, 橋床泰之(北海道大学・農学部/農学院)

第 2 日 5 月 26 日(土) 午前の部 D会場 (講堂)

9:00	D201	<p>ゼロ価鉄ナノ粒子を用いた POPs 等難分解性有機化合物の還元的脱塩素分解技術の開発</p> <p>○高木和広¹, 野間淳一², 渡部真文¹, 栢岡 理²(¹国研)農研機構・農業環境変動研究センター, ²株)栗本鐵工所・技術開発室)</p>
9:15	D202	<p>ウリ科植物内生細菌による DDTs 分解</p> <p>○Ahmad Mahmood, Ryota Kataoka (University of Yamanashi・Faculty of Life and Environmental Sciences)</p>
9:30	D203	<p>α-BHC-F 付加類縁体の合成とそれらの代謝</p> <p>○田中啓司, 岩井崇晃, 松田一彦(近畿大農)</p>
9:45	D204	<p>Fate and transport of neonicotinoids and fipronil in upland field under simulated rainfall condition</p> <p>○Ishwar Chandra Yadav, Thinh Lam Van, Hirozumi Watanabe(東京農工大学・国際環境農学専攻)</p>
10:00	D205	<p>新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア®)に関する研究(第五報) 動物代謝</p> <p>○山岸由和¹, 草苺 啓¹, 横内敬司¹, 井島康行¹, Adele Jones²(¹日産化学工業株式会社, ²ENVIGO)</p>
10:15	D206	<p>新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア®)に関する研究(第六報) 環境動態</p> <p>○草苺 啓, 山岸由和, 横内敬司, 井島康行(日産化学工業株式会社)</p>
10:30	D207	<p>新規除草剤フェンキナトリオンの水中光分解動態に関する研究</p> <p>○宇佐美智巳, 池田光政(クミアイ化学工業株式会社 生物科学研究所)</p>
10:45	D208	<p>[¹⁴C]2,4-dichlorophenol メチル化代謝物はキュウリ幼植物根部で生成・滲出される</p> <p>○上田洸平, 杉岡大介, 林 靖, 大山和俊(一般財団法人残留農薬研究所)</p>
11:00	D209	<p>大気中クロルピクリン濃度評価のための土壌くん蒸圃場からの大気移行フラックス評価方法の検討</p> <p>○小原裕三¹, 山本幸洋², 武田 藍², 國友映理子²(¹農研機構 農業環境変動研究センター, ²千葉県農林総合研究センター)</p>
11:15	D210	<p>スイカ生産現場における広域の大気中クロルピクリン濃度</p> <p>○山本幸洋, 武田 藍, 國友映理子, 小泉正明¹, 小原裕三²(千葉農林総研、¹(株)数理計画, ²農研機構 農環研)</p>

第2日 5月26日(土) 午後の部 A会場(大学院棟 M216)

- 13:15 A211 幼若ホルモンセンサーを用いた昆虫成長制御剤の探索
○塩月孝博¹, 山崎俊正², 鈴木倫太郎², 土屋 渉², 菊田真吾³(¹島根大・生物資源,
²農研機構・高度解析センター, ³茨城大・農)
- 13:30 A212 標的の活性化に関わるオカラミンの構造因子
○野口 晃¹, 加藤直樹², 古谷章悟^{1,2}, 大高潤之介², 衣笠清美², 甲斐建次³, 林 英
雄³, 伊原 誠¹, 高橋俊二², 長田裕之², 松田一彦¹(¹近畿大院・農,²理研 CSRS,³阪
府大院・生環科)
- 13:45 A213 オクトパミン受容体およびチラミン受容体に対する殺虫性精油の作用性
崎田 遼, ○太田広人(熊本大院・自然科学)
- 14:00 A214 アーバスキュラー菌根菌が植物に誘導する病害抵抗性のメカニズムの解析
○藤田萌香¹, 草島美幸¹, 西内 巧², 秋山康紀³, 浅見忠男⁴, 米山弘一⁵, 仲下英雄
¹(¹福井県立大学, ²金沢大学, ³阪府大院・生命環境, ⁴東大院・農生科・応生化, ⁵宇
都宮大学バイオサイエンス教育研究センター)
- 14:15 A215 プロゲステロンによるストリゴラクトン生合成制御
○伊藤晋作¹, 佐々木康幸¹, 矢嶋俊介¹, 浅見忠男²(¹東京農大・バイオ, ²東大院・農
生科)
- 14:30 A216 マンデストロビンによる植物へのグリーニング効果のメカニズム解析
○井戸邦夫, 岩橋福松, 大和誠司, 河村伸一(住友化学株式会社 健康・農業関連事
業研究所)
-

第2日 5月26日(土) 午後の部 B会場(大学院棟 M204)

- 13:15 B211 アントラニルアミド誘導体の合成と殺虫活性 -新規殺虫剤シクラニプロールの創製-
○中元健一, 久松彰弘, 田口陽平, 米田哲夫, 瀧本 卓, 小柳 徹(石原産業株式会社)
- 13:30 B212 含フッ素置換基を有するイミダクロプリド類縁体の合成および生物活性評価
○松原祐佳¹, 釘屋敦基², 山内 聡², 西脇 寿²(¹愛媛大・農, ²愛媛大院・農)
- 13:45 B213 不飽和結合を有する置換基または含フッ素置換基をもつイミダクロプリド類縁体の受容体親和性と CoMFA 解析
○釘屋敦基¹, 松原祐佳², 赤松美紀³, 山内 聡¹, 西脇 寿¹(¹愛媛大院・農, ²愛媛大・農, ³京大院・農)
- 14:00 B214 テトラヒドロキノリン型脱皮ホルモンアゴニストの構造活性相関
○横井大洋, 中川好秋, 宮川 恒(京大院・農)
- 14:15 B215 動物細胞 HEK293T を用いた幼若ホルモン様活性化化合物の定量的活性評価系の確立および、*in silico* スクリーニングによる新規化合物の探索
名部 拓¹, 幌岩真理¹, 林 謙一郎², 原島小夜子³, 八木孝司³, ○中川好秋¹, 宮川 恒¹(¹京大院・農, ²阪大院・医, ³阪府大院・理)
- 14:30 B216 脱皮ホルモンアゴニストの *In silico* スクリーニング
幌岩真理¹, 中川好秋¹, ○宮川 恒¹(¹京大院・農)
-

第2日 5月26日(土) 午後の部 C会場 (大学院棟 M109)

- 13:15 C211 アズキ落葉病菌の生産する植物毒素
○三反崎拓也, 竹谷隆良, 河添翔太, 川出 洋, 夏目雅裕 (農工大院・農)
- 13:30 C212 北アフリカ棲息種サソリ *Buthacus leptochelys* の毒液の成分分析および殺虫性ペプチドの探索
○義本裕介¹, Mohammed Abdel-Wahab², Moustafa Sarhan², 宮下正弘¹, 中川好秋¹, 宮川 恒¹ (¹京都大学大学院農学研究科, ²Al-Azhar 大学)
- 13:45 C213 青枯病菌の走化性誘引物質の探索 (第七報)
○長谷川琢也, 岡部 淳, 加藤雄亮, 夏目雅裕, 川出 洋 (東農工大・連農)
- 14:00 C214 青枯病菌 *Ralstonia solanacearum* MAFF211479 株が産生する ralstoamide 類の単離・構造決定
○小松頌子, 甲斐建次 (阪府大院・生命環境)
- 14:15 C215 青枯病菌クオラムセンシング機構を阻害するアンタゴニストの創製
○坂田 恵, 吉原彩華, 甲斐建次 (阪府大院・生命環境)
- 14:30 C216 真菌資化性細菌 *Collimonas fungivorans* Ter331 株が産生する collimonin 類の構造決定と生物活性
○甲斐建次, 十亀麻衣, 谷 修治 (阪府大院・生命環境)
-

第2日 5月26日(土) 午後の部 D会場(講堂)

- 13:15 D211 フィプロニル及びその代謝物のアキアカネ類幼生に対する感受性
○大津和久(農業・食品産業技術総合研究機構・農業環境変動研究センター)
- 13:30 D212 パッシブサンプリング法とグラブサンプリング法とによる河川水中の農薬の分析結果の
差異に関する考察
○矢吹芳教^{1,2}, 伴野有彩¹, 谷森紳治²(¹大阪府環農水総研, ²阪府大院・生命環境)
- 13:45 D213 流域スケール農薬動態予測モデル PCPF-1@SWAT2012 の改良と検証
○渡邊裕純¹, Le Hoang Tu¹, Julien Boulange², 岩船 敬³, Yadav Chandra Ishwar¹
(¹東京農工大学, ²国立環境研究所・地球環境研究センター, ³内閣府 食品安全委員会事務局)
- 14:00 D214 無人ヘリコプターで散布されたアセタミプリドの飛散と周辺住民への健康影響の可能性
○本山直樹^{1,3}, 孫 立倉^{1,4}, 田畑勝洋²(¹千葉大院・園, ²岐阜県国際園芸アカデミー
現在:³東農大・総研, ⁴ロイヤルインダストリーズ(株))
- 14:15 D215 高所作業車を用いてマツに散布された殺虫剤の作業者暴露
○阿部智早絵¹, 丸 諭¹, 上山 純², 斎藤 勲³, 本山直樹⁴(¹(株)化学分析コンサル
タント, ²名大院・医, ³東海 COOP, ⁴東農大・総研)
- 14:30 D216 高脂溶性汚染物質によって引き起こされる作物汚染の化合物輸送因子を標的とした農
薬による低減化
○藤田健太郎¹, 酒井葵衣², 近藤恭光³, 本田香織³, 長田裕之³, 乾 秀之^{1,4}(¹神戸
大院・農, ²神戸大・農, ³理研・環境資源科学研究セ, ⁴神戸大・バイオ)
-

第3日 5月27日(日) 午前の部 A会場(大学院棟 M216)

9:00	A301	殺菌剤イプロチオランの根伸長促進効果の組織学的解析 ○草島美幸, 井上真依, 宮川昂大, 藤田萌香, 堀田里奈, 仲下英雄(福井県大・生資)
9:15	A302	新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第7報) 卵菌類に対する作用機序研究 第1報 ○池田庸二 ¹ , 藤井孝行 ¹ , 加藤英樹 ¹ , 小澤道弘 ² , 久永晃資 ² , 椎木康介 ¹ , 佐野 博 ¹ , 山田茂雄 ¹ (¹ 日本曹達株式会社, ² 株式会社日曹分析センター)
9:30	A303	新規殺菌剤ピカルブトラゾクスに関する研究(第8報) 卵菌類に対する作用機序研究 第2報 ○藤井孝行 ¹ , 鈴木克己 ³ , 池田庸二 ¹ , 加藤英樹 ¹ , 北橋由貴 ² , 久永晃資 ² , 山田茂 雄 ¹ , 椎木康介 ¹ , 佐野 博 ¹ (¹ 日本曹達株式会社, ² 株式会社日曹分析センター, ³ 静 岡大学農学部)
9:45	A304	全ゲノム解析手法に基づく抗真菌性化合物 Tolnifanide の作用点の同定 ○重吉沙衣 ¹ , 田中千尋 ² , 宮川 恒 ² , 入江俊一 ¹ , 鈴木一実 ¹ , 泉津弘佑 ¹ (¹ 滋賀県大 院・環, ² 京大院・農)
10:00	A305	ミトコンドリアADP/ATP 輸送体の新規阻害剤エポキシシクロヘキセンジオン類の作用機 構研究 ○青山綾希, 村井正俊, 一丸直哉, 三芳秀人(京大院・農・応用生命)
10:15	A306	ミトコンドリア呼吸鎖複合体-Iのユビキノン結合ポケットの構造特性 ○村井正俊, 榎谷貴洋, 三芳秀人(京大院農・応用生命)
10:30	A307	新規殺ダニ剤ピフルブミドに関する研究(第10報) -ハダニ体内の TCA サイクル関連 有機酸含量に対するピフルブミドの影響:ターゲットメタボロミクス的手法を用いた解析- ○中野元文, 村田洋平, 諏訪明之, 藤岡伸祐(日本農薬(株))
10:45	A308	ニコチン性アセチルコリン受容体に対するネオニコチノイドのアゴニスト活性における隣 接 α サブユニットの役割 ○疋田麻衣, 奥原大樹, 伊原 誠, 松田一彦(近畿大院・農)
11:00	A309	γ および α -BHC 骨格にフッ素原子あるいは塩素原子が付加した化合物の GABA アン タゴニスト活性 ○田中啓司 ¹ , 岩井崇晃 ¹ , 坂本賢昭 ¹ , 尾添嘉久 ² , 赤松美紀 ³ , 松田一彦 ¹ (¹ 近畿大 農, ² 島根大生物資源, ³ 京都大農)
11:15	A310	貯蔵糖代謝阻害による根寄生雑草防除法の開発 ○岡澤敦司 ^{1,2} , 馬場敦也 ¹ , 生田宗一郎 ³ , 平原茉季 ³ , 小川拓水 ¹ , 原田和生 ⁴ , 杉本 幸裕 ^{2,5} , 太田大策 ¹ (¹ 阪府大院・生命環境, ² JST/JICA・SATREPS, ³ 阪府大・生命環 境, ⁴ 阪大院・医, ⁵ 神戸大院・農)

第3日 5月27日(日) 午前の部 B会場(大学院棟 M204)

- 9:00 B301 モスアイ構造による昆虫の滑落—新規な害虫の行動制御基材—
○森 直樹¹, 弘中満太郎², 下澤楯夫³, 針山孝彦⁴, 魚津吉弘⁵, 下村政嗣⁶(¹京大院農, ²石川県大, ³北大名誉教授, ⁴浜松医大, ⁵三菱ケミカル, ⁶千歳科学技術大)
- 9:15 B302 モモシクイガに対する炭酸カルシウム水和剤の産卵阻害活性
○風間春奈¹, 高梨琢磨², 所 雅彦², 石栗陽一³, 森 直樹¹, 吉永直子¹(¹京大院農, ²森林総研, ³青森産技セ りんご研)
- 9:30 B303 サイロ空間部投薬循環方式によるリン化アルミニウムくん蒸技術
相馬幸博, ○高橋正和, 川上房男(一般社団法人日本くん蒸技術協会)
- 9:45 B304 カーバムナトリウム塩液剤によるニラのネダニ類の防除
○清遠亜沙子¹, 山下 泉¹, 桑尾昌宏^{1,2}, 森田展樹¹, 島本文子¹, 広瀬拓也¹(¹高知県農技セ, ²現高知県地域農業推進課)
- 10:00 B305 エンドルナウイルスが感染した本邦産アスパラガス疫病菌の薬剤感受性
○内田景子¹, 高橋優実², 岡田 亮^{2,4}, 福原敏行², 有江 力³, 寺岡 徹³, 植松清次², 森山裕充²(農工大院連農¹, 農工大院農 細胞分子², 植物病理³, 茨城園芸研⁴)
- 10:15 B306 ダクト利用常温煙霧のキュウリへの付着状況
○荒井雄太¹, 沼田京太¹, 中村達都², 岡本陽子³, 富田恭範¹(一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所¹, 調査企画部², 宮崎試験場³)
- 10:30 B307 イネばか苗病用生物防除資材候補非病原性 *Fusarium oxysporum* W5 の製剤化と適用拡大の検討
○齊藤大幹¹, 二谷貴夫¹, 佐々木舞衣², 畠山 聡³, 梅村賢司³, 小松 健^{1,2,4}, 有江 力^{1,2,4}(¹農工大院連農, ²農工大院農, ³Meiji Seika ファルマ(株), ⁴農工大 GIR)
-

第3日 5月27日(日) 午前の部 C会場 (大学院棟 M109)

- 9:00 C301 6位が置換された5,6-dihydro- α -pyroneの立体構造と植物生長調節活性との関係
○越智良太, 西脇 寿, 山内 聡(愛媛大院農)
- 9:15 C302 (-)-Arctigeninの2つのベンゼン環上の置換基が昆虫細胞 Sf9 に対する細胞毒性に与える影響
○西本明日香, 西脇 寿, 菅原卓也, 西 甲介, 山内 聡(愛媛大院・農)
- 9:30 C303 テトラヒドロフラン型リグナンの立体構造が植物病原性カビに与える影響
○神野公哉¹, 西脇 寿¹, 秋山浩一², 山内 聡¹(¹愛媛大院・農, ²愛媛大・学術支援センター)
- 9:45 C304 1,4-ベンゾジオキサン環を有する幼若ホルモンアンタゴニストの合成と生物活性
○古田賢次郎, 山田直子, 塩月孝博(島根大・生資科)
- 10:00 C305 新規殺ダニ剤アシノナピル(ダニオーテ[®])に関する研究(第1報)ーアシノナピルの殺ダニ活性ー
○清野宏行, 川口昌宏, 岩佐孝男, 中村武彦(日本曹達株式会社)
- 10:15 C306 新規殺虫剤フルキサメタミド(グレーシア[®])に関する研究(第四報)ミツバチ選択性
○旭 美穂, 大谷征史, 加々美貴弘, 宮本久恵, 佐藤博彦, 小林正樹(日産化学工業株式会社)
- 10:30 C307 タマネギべと病全身感染株の発生抑制に有効な殺菌剤
○田代暢哉, 菖蒲信一郎¹, 正司和之, 中山伸一, 松尾洋一(佐賀上場営農セ,¹佐賀農業セ)
- 10:45 C308 新規植物免疫活性化剤候補化合物の作用機構の解析
○北畑信隆^{1,2}, 斉藤優歩¹, 中野正貴¹, 石賀康博³, 諸橋賢吾¹, 来須孝光¹, 浅見忠男⁴, 朽津和幸^{1,2}(¹東京理科大・理工, ²東京理大・IFC, ³筑波大・生命環境系, ⁴東大院・農生科)
- 11:00 C309 オーキシン・ブラシノステロイド信号伝達同時制御剤耐性株の選抜
○田中-ジャルンサンティ ナイヤネート¹, 宮崎 翔¹, 細井昂人², 田中啓介³, 伊藤晋作², 井内 聖⁴, 中野雄司⁵, 小林正智⁴, 中嶋正敏¹, 浅見忠男¹(¹東大院・農生科・応生化, ²東京農大・バイオ, ³東京農大・生物資源ゲノム解析センター, ⁴理研・BRC, ⁵理研・CSRS)
-

第3日 5月27日(日) 午前の部 D会場(講堂)

9:00	D301	施設キュウリにおける栽培方法の違いが農薬の残留濃度に及ぼす影響 ○成田伊都美, 山崎晴民, 小林昌永, 中畝 誠(埼玉県農業技術研究センター環境安全研究, 施設園芸先端技術研究)
9:15	D302	ブドウ試料の均一化および秤取操作が残留分析結果に与える影響 ○矢島智成, 曳埜 忍, 逆井美智子, 小林大介, 飯島和昭, 大山和俊(一般財団法人残留農薬研究所・化学部)
9:30	D303	サロゲート法による作物中のネオニコチノイド系農薬の一斉分析 ○伴野有彩, 矢吹芳教(大阪府立環境農林水産総合研究所・環境研究部)
9:45	D304	奈良県における堆肥中のクロピラリド濃度実態について ○西川 学(奈良県農業研究開発センター)
10:00	D305	LC-MS/MSによる牛ふん堆肥中クロピラリドの高感度分析法の確立 ○渡辺栄喜, 清家伸康(農研機構 農業環境変動研究センター)
10:15	D306	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第15報 ほ場試験によるコマツナの土壌中農薬の吸収性評価 その2 ○清家伸康 ¹ , 元木 裕 ² , 渡辺栄喜 ¹ , 並木小百合 ¹ , 稲生圭哉 ¹ (¹ 農研機構 農業環境変動研究センター, ² 独立行政法人農林水産消費安全技術センター)
10:30	D307	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第16報 黄色土ほ場における水抽出農薬の減衰傾向 ○望月 証 ¹ , 富原工弥 ¹ , 清家伸康 ² (¹ 兵庫県農総セ, ² 農研機構 農環研)
10:45	D308	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第17報 灰色低地土ほ場における水抽出農薬の減衰傾向 清遠亜沙子 ¹ , ○島本文子 ¹ , 森田展樹 ¹ , 清家伸康 ² (¹ 高知県農技セ, ² 農研機構農環研)
11:00	D309	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第18報 砂丘未熟土における水抽出農薬の減衰傾向 ○田中昭人 ¹ , 大黒香奈美 ¹ , 谷 博 ¹ , 清家伸康 ² (¹ 徳島農総技セ, ² 農研機構 農環研)
11:15	D310	農薬の後作物残留リスク評価に関する研究 第19報 葉菜類を対象とした農薬の後作物残留濃度予測モデルの開発 ○稲生圭哉 ¹ , 清家伸康 ¹ , 元木 裕 ² , 渡辺栄喜 ¹ , 並木小百合 ¹ (¹ 農研機構農業環境変動研究センター, ² 農林水産消費安全技術センター農薬検査部)

会場案内

秋田ビューホテル (<https://www.viewhotels.co.jp/akita/access/>)

(総会, 学会賞授賞式, 受賞講演, 特別講演, 懇親会, 受賞祝賀会)

航空機をご利用の場合, 秋田空港からリムジンバスで「秋田駅西口」下車(所要約35分)。JR秋田駅西口よりホテルまで徒歩3分。

秋田県立大学秋田キャンパス (<http://www.akita-pu.ac.jp/access/index.htm>)

(一般講演, シンポジウム, ランチョンセミナー, 展示会)

JR「秋田駅」から奥羽本線もしくは男鹿線(下り)で「追分駅」下車(所要約15分), 徒歩約25分。

5月26日, 27日とも, JR秋田駅東口から秋田県立大学までシャトルバスを用意します。

5月26日, 27日 秋田駅東口 8:00発, 秋田県立大学行き(所要約40分)

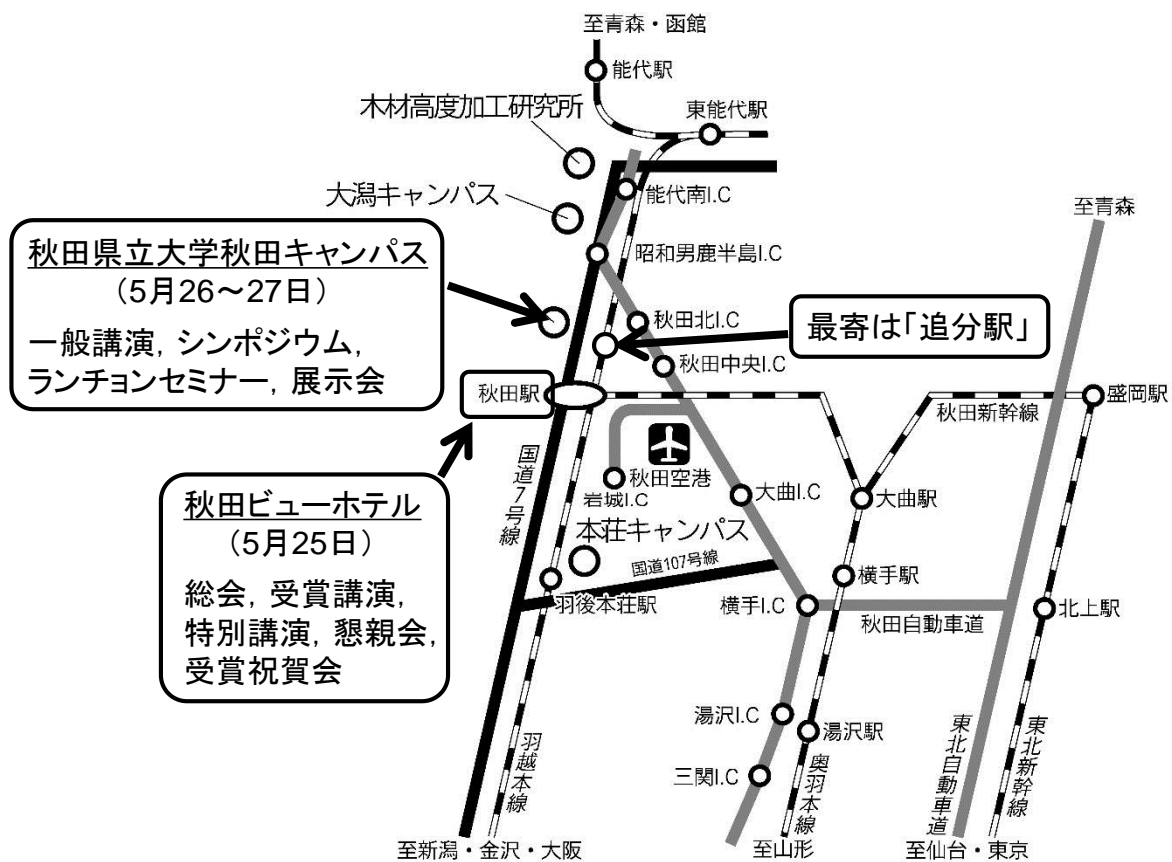
5月26日 秋田県立大学 18:30発(シンポジウム終了後), 秋田駅行き

5月27日 秋田県立大学 16:30発, 秋田空港行き

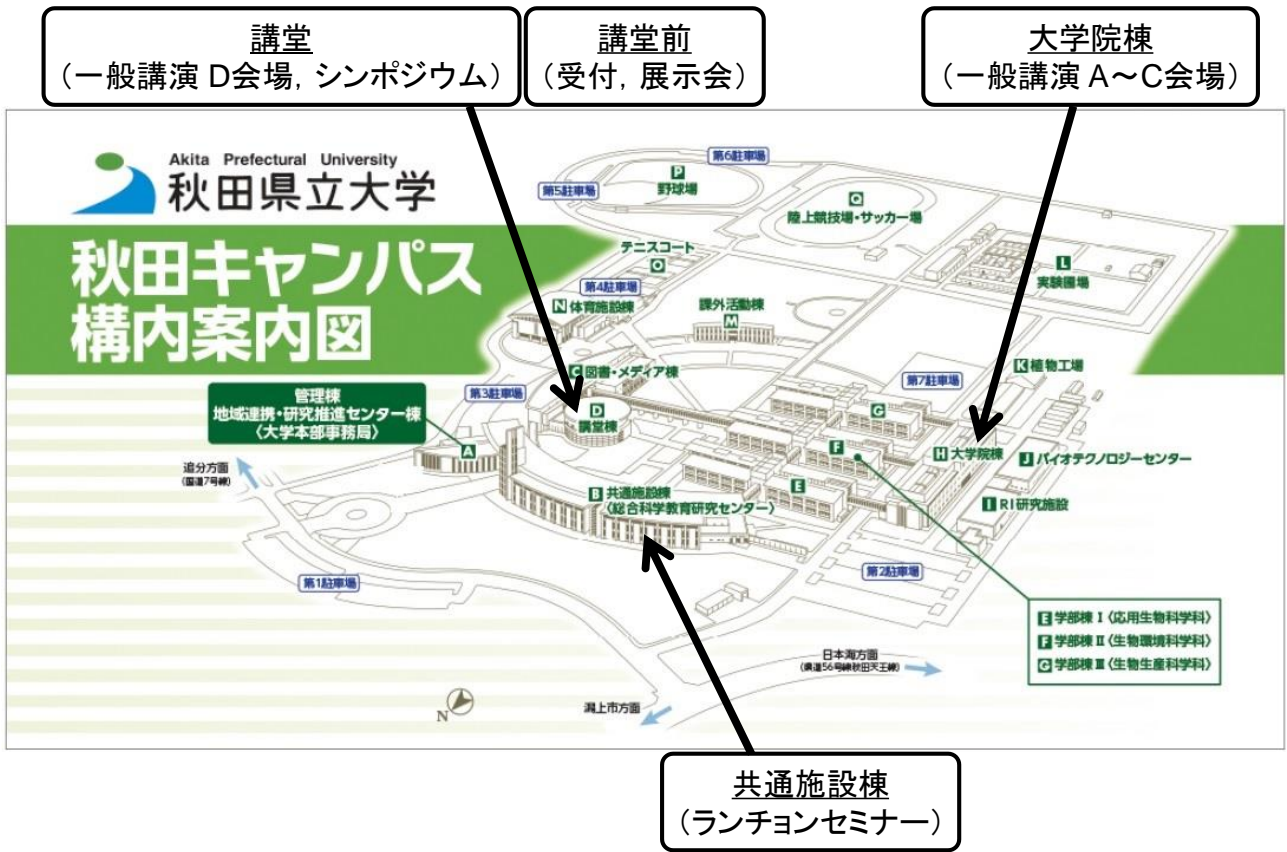
秋田県立大学 17:00発, 秋田空港行き

秋田県立大学 17:00発, 秋田駅行き

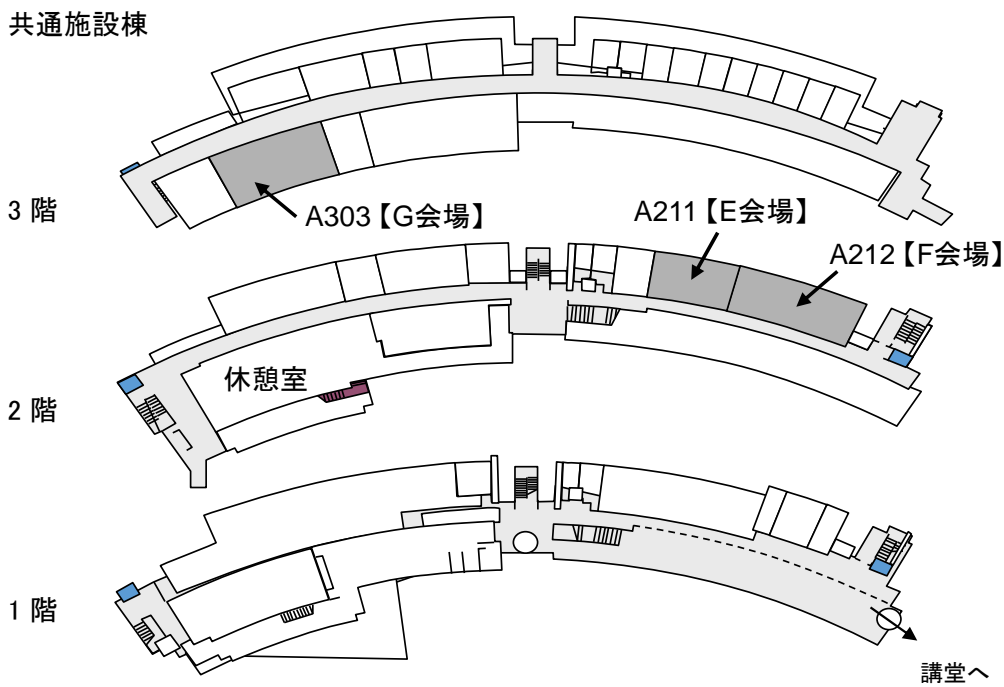
秋田県立大学秋田キャンパスでは駐車場がご利用いただけます(無料)。



秋田県立大学秋田キャンパス構内 案内図



共通施設棟(ランチョンセミナー会場) 案内図



大学院棟(A~C会場), 講堂(D会場) 案内図

